

第121回火山噴火予知連絡会
霧島山（新燃岳）の火山活動に関する検討結果

新燃岳では、間欠的に噴火が発生しています。新燃岳の北西地下深くのマグマだまりには深部からのマグマの供給が続いており、今後噴火活動が再び活発化する可能性があります。

霧島山（新燃岳）では、1月26日から本格的なマグマ噴火が始まり、多量の火山灰等を放出する噴火活動があり、火口内に溶岩が噴出、爆発的な噴火が繰り返されました。4月18日以降約2ヶ月間噴火が発生しませんでした。6月16日以降、間欠的に噴火が発生しており、数時間～1週間程度継続する噴火が7回発生しました。

新燃岳直下の火山性地震はやや多い状態が継続しています。1日あたりの二酸化硫黄の放出量は、噴火中や噴火直後は1日あたり1000～2000トン程度と増加しましたが、それ以外は200～400トン程度と少ない状態で経過しています。

GPS観測によると、新燃岳の北西数kmの地下深くにあると考えられるマグマだまりは、1月26日から2月1日の本格的なマグマ噴火に対応して急激に収縮したものの、再び緩やかな膨張を続け、現在、その膨張量は、本格的なマグマ噴火の際の収縮量の半分以上となっています。

新燃岳周辺の地震活動には、顕著な変化は認められません。

以上のように、新燃岳では、噴火を繰り返しており、引き続き、2月中旬以降発生した程度の爆発的な噴火の可能性はあります。新燃岳の北西地下深くのマグマだまりへのマグマの供給は続いており、今後、噴火活動が再び活発化する可能性があります。深部のマグマだまりから新燃岳へ多量のマグマが上昇すれば、今年1月下旬から2月上旬の本格的な噴火に匹敵する活動を再開することも考えられます。

引き続き、新燃岳付近では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。風下側では降灰及び遠方でも風に流されて降る小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。また、爆発的な噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。

噴火警報等及び霧島山上空の風情報に注意してください。

降雨時には泥流や土石流に警戒が必要です。降雨に関する情報にご注意ください。